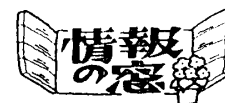


JORSJ が変わります



宮沢 政清 (JORSJ 編集委員長)

1. はじめに

昨年より、日本オペレーションズ・リサーチ学会論文誌（英文略称 JORSJ）編集委員会では、JORSJ の体裁、電子化、和文論文の取り扱いなどについて議論を重ねてきました。これに基づき昨年 10 月 26 日の臨時編集委員会で新しい方針が決定され、11 月 14 日の日本オペレーションズ・リサーチ学会理事会で承認されました。この方針における最も大きな変更点は、2004 年より英文論文と和文論文を分けて出版することです。大変大きな方針変更ですので、日本オペレーションズリサーチ学会会員の皆様並びに日頃より JORSJ にご支援をいただいている皆様に、この変更に至った経緯をご説明することが本文の主な目的です。これまで、JORSJ についての報告がほとんどありませんでしたので、最初に JORSJ の経緯と現状についてご説明いたします。

2. JORSJ の経緯と現状報告

JORSJ は 1957 年に創刊され、毎年 1 巻を出版し、今年は 46 巻になります。発刊当初から今日に至るまで、年 4 回に分けて発行されてきました。創刊から 1975 年までは使用言語は英語、フランス語、ドイツ語でした（実質的には英語）。しかし、1976 年に月刊誌のオペレーションズ・リサーチ誌が日科技連より OR 学会に移管されたのに伴い、それまで和文論文誌であった「経営科学」が廃刊となりました。これに伴い、論文誌にも日本語の論文を掲載することとなりました。さらに、1987 年からは使用言語が日本語と英語になり今日に至っています。創刊時の経緯から、英語の論文が多数を占めてきたことがこの雑誌の大きな特徴になっています（表 1 参照）。この間、1999 年から 2001 年までの 3 年間 Elsevier Science Ltd. に海外頒布を委託しましたが、2002 年からは委託を止め元通り学会が直接頒布しています。また、1998 年よりページ費用の著者負担制度（ページチャージ）が導入され今日に至っています。

表 1 論文投稿数（*：特集号への投稿数）

年	1998	1999	2000	2001	2002
投稿数	49	50	67	66	69
特集号*	13	3	0	29	0
合計	62	53	67	95	69
和文合計	10	10	19	35	12
国内投稿数	49	36	44	72	40
再投稿数	42	60	32	48	59
掲載数	42	34	31	25	36
和文掲載数	8	6	1	8	10
総頁数	650	518	510	402	549
巻数	41	42	43	44	45

このように JORSJ は長い伝統を持ち、国際的な学術雑誌として広く認知されています。しかし、率直に申し上げて、JORSJ の国際的学術雑誌としての評価は高くはありません。この点に関してはこれまでの編集委員会で長年にわたり議論されてきました。いろいろな理由を挙げることはできると思いますが、まずは表 1 の過去 5 年間の論文投稿に関するデータをご覧ください。

特集号への投稿はほとんどが国内からのものであることを考慮すると、この表から、国内からの通常の投稿件数が毎年 40 件前後であることが分かります。この数は日本における研究者の層の厚さを考えると少ない数です。JORSJ が投稿するのに魅力のある論文誌として評価が低いことを示唆しています。問題点をあげ、一つずつ解決する努力が必要です。

一方、近年の総投稿論文数の増加は国外からの投稿によって支えられていることも分かります。次にどの国から投稿されているかをみるために国および地域別の投稿件数をあげます（表 2）。なお、表に入っていないが、5 年間で投稿件数が 1 件であった国に、米国、カナダ、アルジェリア、インド、クロアチア、サウジアラビア、トルコ、ドイツ、バングラデシュ、ベルギー、マレーシアがあります。

表2 国・地域別投稿数 (†:不明を含む)

年	1998	1999	2000	2001	2002
日本	49	36	44	72	40
国外合計	13	17	23	23	29
中国	0	2	12	10	3
台湾	2	10	3	3	8
韓国	1	1	3	3	3
イラン	0	1	1	2	9
スペイン	2	0	0	1	2
エジプト	0	0	2	0	1
ギリシャ	0	0	1	1	0
その他	8†	3	1	3	3

外国からの投稿はアジア中心で、論文の質が低いものが多く、採択率が極端に低いのも事実です。しかし、外国からの投稿論文が4割に達している事実は注目すべき点です。JORSJが曲がりなりにも国際的な論文誌として認知されていると見てよいかもしれません。今後は、アジアを中心とした地域の研究者を育てる観点からの査読や審査も必要かもしれません。

JORSJにとって恵まれた点は学会誌であるために商業誌（出版社の発行する論文誌）のようにページ数を確保する必要がないことです。昨今の商業誌は理由は定かではありませんが、大量に論文を載せているものがあります。結果的には注目度を上げていることは事実ですが、かなり無理をしているようにも見えます。JORSJにはこのような必要はありませんが、ORを発展させると同時に学会会員へのサービス提供という役割を担っています。

3. JORSJの問題点

JORSJが役割を十分に果たすためには優れた論文を集めることが必要です。このためには何が問題であるかを次に論じます。

3.1 審査が遅い

学術雑誌にとって最も重要な点は、平凡ですが、的確な審査結果を迅速に著者に返すことにつきます。特に、査読報告、中でも、内容のあるコメントを著者へ返すことが最も重要です。いろいろな事情により審査結果の報告が遅れることがありますが、現在の編集委員会では、3ヶ月を目処に遅くとも6ヶ月以内に審査結果を通知することを目標に努力しています。より能

表3 審査状況 (*:再投稿待ちの数, 数値はすべて最初に投稿された年を基準に算出)

年	1998	1999	2000	2001	2002
投稿数	62	53	67	95	69
採択	37	28	26	32	3
不採択	22	19	33	44	22
取下げ	3	6	4	5	0
審査中	0	0	1	9	33
再審査数	0	0	(1)	(8)	(10)
待ち数*	0	0	3	5	11

率を上げるには審査経過を論文投稿者がいつでも確認できるようにシステムの導入が必要かもしれません。ご参考までに、本年2月10日現在の論文審査状況を表3にまとめました。

3.2 特色がない

JORSJはORの分野すべてを網羅していますので、特色を出しにくいのは事実です。これはOR学会自体にもいえることですが、専門が細分化され、専門ごとに学術雑誌があるので、特色が分かりにくくなっています。JORSJのこれまでの傾向を見てきますと、理論的であることが特色といえるかもしれません。これからはもっと応用があるとよいと思います。実現できるか分かりませんが、異なる分野にまたがる新しい理論、応用から生まれた新しい理論、独創性のある応用が展開されるような紙面を作りたいと望んでいます。

3.3 サーキュレーションが悪い

これはJORSJへ投稿しない人の多くが指摘することです。この点はJORSJを電子化し、インターネットで自由にアクセスできるようにすれば、大きく改善するものと思われます。

3.4 紙面が読みにくい

読みやすい紙面作りが重要なことは言うまでもありません。JORSJにおいてもこれまでに紙面の改善が加えられてきましたが、他の学術雑誌に比べ見劣りする点もいくつかあります。例えば、各論文の表題のページにページ情報がない、キーワードや項目別索引がないなどです。このような技術的な問題のほかに、JORSJには英文と和文が混在しているという問題があります。これは国際的に広く読んでもらうための障害になっていると思われます。サーキュレーションとも関連し、早急に改善すべきことです。

3.5 電子化を含めサービスが悪い

投稿や出版の電子化がされていない、ホームページが貧弱であるなどの問題点があります。

3.6 情報が十分に公開がされていない

審査過程や審査基準の説明が不足している、論文投稿状況などの情報公開が十分にされていないなどの問題点があります。読者に情報を提供し、興味を持ってもらうことは重要なことです。

4. これからの JORSJ

上記の問題点を少しでも解決すべく JORSJ では以下の変更を行う予定です。

4.1 2003 年からの変更点

1. 各論文の表題ページに論文のページ情報を付け加えます。また、著者にご協力頂きアブストラクトの直後にキーワードを載せます。このキーワードに基づき、年度末の号には項目別索引を載せる予定です。

2. 著者紹介記事 (About the Authors) を省略します。これは、手間をかけている割には読まれていないと思われること、最近では著者情報がインターネットで容易に入手できることのためです。

3. 電子化を進めます。PDF ファイルによる電子投稿を正式に受け付けます。ただし、確認のために従来通りのハードコピーを1部とカーバー用紙を学会宛に送ってください。なお、従来通りの投稿 (ハードコピー4部を提出) も受け付けます。

4. 採択された論文の最終原稿は LaTeX で学会のスタイルファイルを使って作成して頂きます。これは、統一のとれた紙面の作成と将来の電子出版のためです。

5. 本年度からすべての論文を学会のホームページで公開することを検討しています。ただし、学会員の特典を守るために、公開は出版後適当な期間が過ぎてから行います。

4.2 2004 年からの変更点

2004 年の 47 巻 1 号から論文誌を英語の論文のみを

載せる英文論文誌 (以下英文誌) と日本語の和文論文誌 (以下和文誌) に分けて出版します。紙面を読みやすくすること、国際的な評価を高めることが目的です。英文誌の題目は従来通り日本オペレーションズ・リサーチ学会論文誌 (Journal of Operations Research Society of Japan) とし、和文誌は日本オペレーションズ・リサーチ学会和文論文誌 (Japanese Journal of Operations Research Society of Japan) とする予定です。出版形態は次のように変わります。

1. 英文誌の発行は従来通り年4回とします。

2. 和文誌はこれまでの実績から年1回 (100 ページ前後) 年度末に従来の形態で発行します。英文誌と区別するためにページ番号に J を付けます。ただし、速報性を維持するために、論文が採択され次第、学会のホームページに電子ジャーナルとして載せます。このページは広報の意味も込めて学会員以外でも自由にアクセスできるものとします。

3. 英文誌と和文誌の一体性を維持するために年度末の英文誌に共通の総索引を載せます。

日本語の論文は月刊誌のオペレーションズ・リサーチにもありますが、これは従来通りです。したがって、和文誌に投稿の際には JORSJ と明記してください。なお、和文誌の論文審査は従来通り、JORSJ 編集委員会が行います。

5. おわりに

今回の JORSJ の変更は編集委員会で議論を重ねてきたものですが、今後は読者の皆様の意見を採り入れてさらなる改善を図っていきたいと考えています。今回の変更点に関する皆様のご意見を学会事務局宛に遠慮なくお寄せください。

最後になりますが、JORSJ は OR を学術的に発展させるための論文誌です。是非投稿し、JORSJ を大いに利用してください。今後とも皆様のご支援を切にお願いする次第です。